

第8回一ノ宮用水生きもの調査速報

西田一也（東京農工大学非常勤講師）・山本康仁（同大学 OB）

1. 目的

2016年4月10日（日）午後に一ノ宮用水において、1）生息する水生生物相、2）これまでに行われた水路改修が生き物と水路環境に与える影響、の把握を目的に、13名によって調査を行った。

2. 結果と考察

計20種類1055個体の生き物が採集された（表1）。I1ではドジョウ、カワリヌマエビ属、I2ではギンブナ（写真1）、オイカワ、カワムツ、I3ではシオカラトンボのヤゴ、タモロコ、I4ではヨコエビ類、カワニナ属が多かった。また、橋下区間（I2）でのみカワムツ、カマツカ、コオニヤンマ、コヤマトンボのヤゴが採集された。前回の11月調査に比べて橋下区間（I2）で魚類が多く採集され、越冬場として水深が大きく、抽水植物が減少する季節にも橋による隠れ場所が維持されるこの区間を選択していたと考えられる。なお、橋下区間（I2）には砂泥や落葉落枝が堆積しているが、水深は30cm程度に保たれており、前回に比べても浅化はみられなかった。生き物の生息に配慮して改修した区間（I3）では、砂泥の堆積および沈水植物の生育が前回に比べて進んでおり、また、抽水・湿生植物の侵入もみられたことから（写真2）、環境の変化が進行中であると考えられた。

表1 水生生物の採集個体数

No.	種類名	I1	I2	I3	I4	合計	備考
1	ギンブナ	2	4	1		7	
2	オイカワ	1	40	1		42	
3	カワムツ		4			4	国内外来種
4	タモロコ	5		6	1	12	国内外来種？
5	カマツカ		1			1	都・準絶滅危惧種
6	ドジョウ	30	13	2	5	50	国・情報不足種
7	シオカラトンボヤゴ	1	5	25	24	55	
8	コオニヤンマヤゴ		1			1	
9	コヤマトンボヤゴ		1			1	
10	ホンサナエヤゴ				1	1	都（南多摩）・準絶滅危惧種
11	カゲロウ類	1			1	2	
12	ミズムシ				4	4	
13	アメリカザリガニ	39	30	7	32	108	国外外来種
14	カワリヌマエビ属	529	75	7	121	732	外来種
15	ヨコエビ類	1		1	12	14	
16	カワニナ類	2			11	13	
17	モノアラガイ科？	2		2	1	5	
18	サカマキガイ				1	1	
19	ガガンボ類				1	1	
20	ヒル類				1	1	
	合計	613	174	52	216	1055	



写真1 橋下区間（I2）で採集されたギンブナ



写真2 生き物の生息に配慮して改修した区間（I3）に侵入してきた植物